

F780BT-GV

ユーザーズガイド



2011 年度 1.14 版(A9)

P8～P10 の「各設定項目の見方について」
設定方法の参考資料をご用意しております。

無線接続・動作モードについては
第二章・第三章でご確認ください。

目次

第一章 はじめに	
Fuzzy Scan について	1
各部名称	
バッテリーの挿入方法について	2
充電について	
プログラミングマニュアルについて	3
製品の開梱について	
免責事項	
インジケータの表示状態について	4
セットアップマニュアル改訂履歴	6
第二章 無線接続モードについて	
PIAR モード	11
PICO モード	12
HID モード	14
SPP マスターモード	15
SPP スレーブモード	17
第三章 動作モードについて	
アウトオブスキヤニングモード	18
バッチスキヤニングモード	19
第四章 クイックセットアップコマンド	
インターフェース	21
PS/2 (DOS/V) Keyboard standard Wedge	
Keyboard Replacement	
PS/2 (DOS/V) KBW turbo	
RS232 Serial	
USB HID	
USB HID turbo	
USB COM	
トリガーオペレーションモード	22
Trigger Mode	
Presentation Mode	
第五章 ホストインターフェース	
キーボードインターフェースコントロール	
キーボードレイアウト	23
Preamble (プリアンブル)	24
Data Length Transmission (データレングス伝送ミッション)	
Symbology ID Transmission (シンボロジック ID 伝送ミッション)	25

Postamble (ポストアンブル)	
Record Suffix (レコードサフィックス)	
Caps Lock	26
Caps Lock Release	
Inter Message Delay (インターメッセージディレイ)	
Inter Character Delay (インターキャラクタディレイ)	27
Inter Function Delay (インターファンクションディレイ)	
Function Key Emulation (ファンクションキーエミュレーション)	
Key Pad Emulation (キーパッドエミュレーション)	28
Upper/Lower (アッパー/ロウアー)	
シリアルインターフェースコントロール	
STX/ETX control	29
Preamble (プリアンブル)	
Data Length Transmission (データレングス伝送ミッション)	30
Symbology ID Transmission (シンボロジ- ID 伝送ミッション)	
Postamble (ポストアンブル)	
Record Suffix (レコードサフィックス)	31
Inter Message Delay (インターメッセージディレイ)	
Inter Character Delay (インターキャラクタディレイ)	32
Inter Function Delay (インターファンクションディレイ)	
Hand Shaking Protocol (ハンドシェイクプロトコル)	
Baud Rate (ボーレート)	33
Data Frame (データフレーム)	
Serial Response Time-Out(シリアルレスポンスタイムアウト)	34
ワンドエミュレーション	
OutPut Polarity	35
Initial Signal	
Margin Time(マージンタイム)	
Modole Time	36
Narrow/Wide Patio	
Code39/Code128 Emulation	
第六章 オプションコントロール	
Buzzer (ブザー)	37
Beeping Control (ビーピングコントロール)	
Good Read Duration (グッドリードデュレーション)	38
Power on Indicator (パワーオンインジケーター)	
Redundancy (リダンダンシー)	39
Flash Duty Cycle (フラッシュデュティサイクル)	
Inverse Reading (インヴァースリーディング)	
Reread Delay (リリードディレイ)	

Good Read Delay (グッドリードディレイ)	40
Light Source on Time (ライトソースオンタイム)	
Hands Free Time-Out (ハンズフリータイムアウト)	
Time Delay to Low Power Trigger (タイムディレイトリガー)	41
Scan Rate Control (スキャンレートコントロール)	
Presentation Auto-sense (プレゼンテーションオートセンス)	42
Presentation Sensitivity (プレゼンテーションセンシティブティ)	
Vibrator Control (バイブレーターコントロール)	43
第七章 無線通信オプションコントロール	
Link Supervision Time-out	44
Sleep Time-out of Connect State	
Sleep Time-out Disconnect State	
Bluetooth Device Name	45
Bluetooth PIN Code	
Bluetooth Authentication	
HID Link Quality Setting	46
Bluetooth Power Saving Mode	
第八章 シンボルコード ID	
シンボルコード ID 設定	47
読み取りシンボル	48
第九章 シンボル	
Code 39	49
Codabar	51
UPC	53
EAN/JAN	54
IATA	57
Interleaved 2of 5	
Code25	58
Code11	59
Code93	60
MSI/Plessey	61
Code 128/EAN-128	62
UK/Plessey	63
Telepen	64
GS1 DataBar	65
第十章 データウィザード	
Data Formatter Setting (キャラクタ付加機能)	66
Data Verifier Setting (フィルタリング機能)	68
Data Replacer Setting (キャラクタ置換機能)	70
Data Organizer Setting (データ構成機能)	71


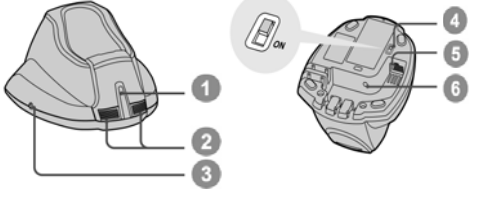
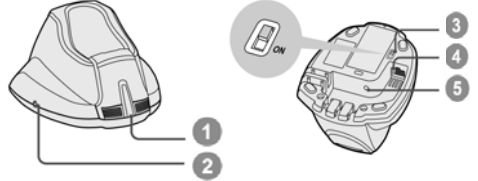
データウィザードについて	72
第十一章 付録	
キーボードファンクションテーブル	75
HEX/ASCII キャラクタテーブル	76
システムコマンド	77
サンプルシンボル	78
バーコードコマンドメニュー (設定用バーコード)	80

第一章 はじめに

FuzzyScan について

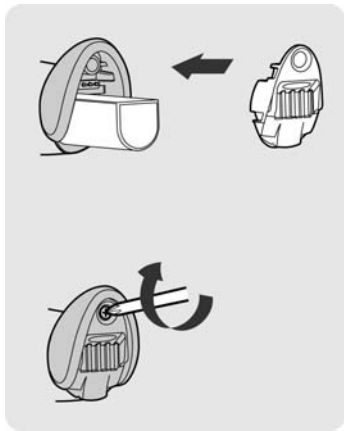
この度は FuzzyScan イメージャーをお選びいただきまして誠にありがとうございます。
FuzzyScan イメージャーは広範囲のアプリケーションマーケットに作業性・生産性の向上を目的に製造されました。
このプログラミングマニュアルはバーコードイメージャーの各種設定を変更する際に使用します。

各部名称

F780BT	
	1 : リンクインジケータ 2 : ステータスインジケータ 3 : ビーパー 4 : スキャンウィンドウ 5 : トリガー 6 : リセットボタン
HB2110 スマートクレードル (Base)	※通信充電クレードル
	1 : センターインジケータ 2 : サイドインジケータ 3 : ページング/リセットボタン 4 : USB バスパワースイッチ 4 : ホストインターフェースポート 5 : DC パワージャック
HB2100 チャージングクレードル(Base)	※充電専用クレードル
	1 : パワーインジケータ 2 : リザーブ 3 : USB バスパワースイッチ 4 : リザーブ 5 : DC パワージャック

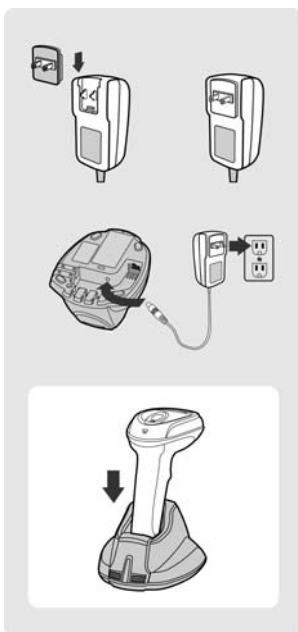
ご使用前に

バッテリーの挿入について



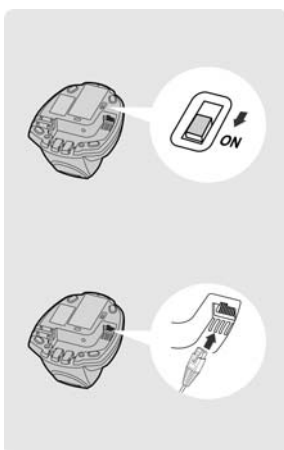
- ① バッテリーの端子が本体充電端子に接触していることを確認してください。
- ② エンドキャップをロックする前にクリック音が鳴るまで奥までバッテリーを挿入してください。バッテリーが正しく挿入されると4回のブープ音が鳴ります。
- ③ 付属のネジでエンドキャップを固定して下さい。スキャナを使用する前にエンドキャップが正しく固定されているかを確認してください。

充電について



- ① 4種類の電源コネクタのアタッチメントが電源キットにあります。正しい電源コネクタをACアダプタに取り付けてください。
- ② ACアダプタをコンセントに接続して下さい。
- ③ クレードルのACジャックにACケーブルを接続して下さい。接続されるとクレードルはブープ音を鳴らします。そして、センターインジケータは青の点滅をします。充電の際はパワーインジケータが青の点滅をしていることを確認してください。
- ④ スキャナをクレードルに置いて下さい。バッテリーの充電が満充電ではない場合、ステータスインジケータは安定した赤の点滅をします。バッテリーが満充電になるとステータスインジケータが安定した緑の点滅になります。

※電源供給をUSBバスパワーで利用する場合※



- ① ホストデバイスがUSB3.0インターフェース対応している場合、本機能を利用することが出来ます。この機能は、外部供給を行わなくてもバッテリー充電と通信を正常に行うことが出来ます。
- ② ホストデバイスがUSB2.0の対応のみの場合は、電源供給が不十分の為、外部電源供給の利用をお勧めいたします。
- ③ この機能を利用する場合は、USBバスパワースイッチをONにしてください。

プログラミングマニュアルについて

FuzzyScan バーコードコマンドはイメージャー内部のプログラミングパラメータを変更するために設計された専用のバーコードコマンドです。

各 FuzzyScan バーコードイメージャーは、工場出荷時に海外市場における一般的な端末及び通信装置用に設定されています。

日本市場向けにご利用される際は、設定変更が必要であり、本書に記載のプログラミングコマンドを読み取りプログラミングパラメータの設定変更を行ってください。

記号 (◆) 付いているオプションは、工場出荷時の設定になっております。

製品の開梱について

梱包箱を開けた際は、下記の確認を行ってください。

- ・製品及びケーブル等の損傷がないか確認します。
損傷があった場合は、すぐに配達運送会社及び販売店にご連絡ください。
- ・箱の中身に間違いがないか確認します。
- ・修理時の返却もしくは返送が必要な場合に、梱包箱が必要になる場合がございますので大切に保管してください。

免責事項

- ・ PC Worth (以下 PCW) は、本書に記載された使用およびその他の情報を事前に断りなく変更することがあります。
 - ・ 本書の技術的仕様や編集上の誤り等で結果発生した損害については、PCW は一切の責任を負いません。
 - ・ 本書には著作権で保護された情報が含まれ、著作権法の対象になります。
 - ・ 本書は PCW の事前承諾を得ずに複製・変更、又は他の言語への翻訳はできません。
- 株式会社アイエムプロジェクトは、PCW にすべての文書・ロゴの使用を許可された日本唯一のディストリビューターです。

インジケータの表示状態について



F780BT 本体

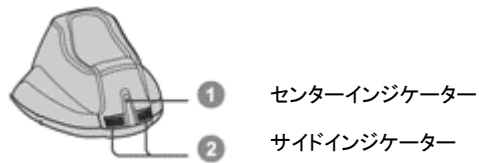
[F780BT 本体]

① リンクインジケータ(小)

状態	インジケータ	ビープ音
無線接続中	2.5 秒に 1 回の点滅	なし
無線未接続状態	2 秒に 3 回の点滅	なし
ペアリングプロセス中	連続した早い青点滅	連続したクリック音
無線接続復旧	2.5 秒に 1 回の点滅	4 回の上昇音
無線接続消失	2 秒に 3 回の点滅	4 回の下降音
パッチデータ転送	早い青点滅	連続したクリック音

② ステータスインジケータ(大)

状態	インジケータ	ビープ音
充電中	赤点灯	なし
充電完了	緑の遅い点滅	なし
パッチスキャンモード	2 秒に 1 回の緑点滅	なし
無線接続失敗	赤点灯	2 回のビープ音
メモリフル	2 回の赤点滅	2 回の長いビープ音
バッテリー残量小	赤の遅い点滅	1 回の遅いビープ音
バッテリー残量最小	8 回の赤点滅	8 回のビープ音
グッドリード	1 回の緑点滅	1 回のビープ音
設定中	赤点灯	なし
初期化状態	緑と赤の点滅	なし
クレードルとの接続確認	なし	6 回のビープ音
スリープ状態/バッテリー残量無	なし	なし



HB2110 スマートクレードル
(通信/充電クレードル)

HB2110 通信/充電クレードル

状態		インジケータ		ビープ音
		センター	サイド	
電源投入		青点滅	なし	パワーオンビープ
初期化状態		なし	緑と赤の点滅	なし
PICO モード	無線接続中	青点灯	緑点灯	なし
	無線未接続中	なし	赤点灯	なし
PAIR モード	無線接続中	青点灯	なし	なし
	無線未接続中	なし	赤点灯	なし
スキャナとの接続確認	PICO モード	青点灯	緑点灯	6回のビープ音
	PAIR モード	青点灯	なし	6回のビープ音

セットアップマニュアル改訂履歴

日付	REV	改定内容
2011年4月	1.14	リリース版

※各設定項目の見方について※

本製品の設定は、本書記載のバーコードコマンドを利用します。

設定手順は該当する項目に直接記載をしております。

このページでは、各項目の名称や留意事項をお知らせします。

①：下記のフォーマットの記載項目では、設定開始バーコードなどは必要なく
該当の項目を一度読み取ることで設定が変更されます。

クイックセットアップコマンド・無線接続モードが該当します。

表示参照例：

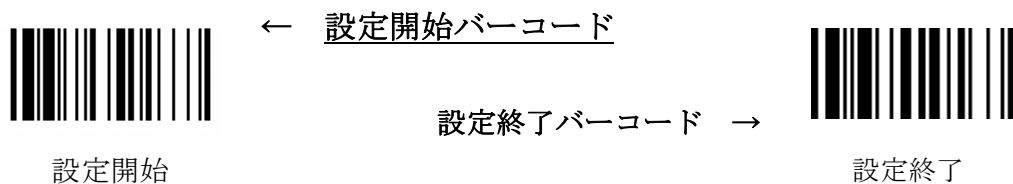
クイックセットアップコマンド	
クイックセットアップコマンドはホストインターフェース・オペレーションモードを容易に設定できるコマンドです。 ※クイックセットアップコマンドは設定開始バーコードから設定する必要はありません。 該当するコマンドを読み取って頂くことで設定変更が可能です。	
◆ホストインターフェース◆	
PS/2 (DOS/V) KBW Standard Mode (PS/2 スタンダードモード インターフェース(DOS/V))	PS/2 (DOS/V) KBW Turbo Mode (PS/2 ターボモード インターフェース(DOS/V))
	
Keyboard Replacement (PS/2 リプレイスメントインターフェース)	RS232 Serial (RS232 インターフェース)
	

②：下記のフォーマットの記載項目では、設定開始・設定終了バーコードが必要となります。クイックセットアップ以外はこれに該当します。

設定方法は各項目に直接記載しておりますが、設定手順が違う項目については直接設定項目に記載をしています。

各バーコードの名称は表示参照例に直接記載しておりますのでご確認ください。

表示参照例



◆設定手順◆

Code 39

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

項目バーコード →	↓ 設定値 ↓
Code 39 読まない	0
Code 39 読む ◆初期値◆	1
Code 39 スタンダードプライマリフォーマット ◆初期値◆	2
Full ASCII Code 39 プライマリフォーマット	3
Code 32 プライマリフォーマット	4
スタートストップキャラクタを転送しない ◆初期値◆	5
スタートストップキャラクタを転送する	6

上記の表示例では、Code39 の項目を記載しております。

設定例①

Code39 を読まないに設定

設定開始 → 項目バーコード → Code39 読まないの右側の番号が 0 の為、
P64 の設定用バーコードより「0」を読み取る → 設定終了

設定例②

表示例を見て頂くと設定変更項目に白い部分と色がついているに分かれています。
これは、Code39 に数種類に設定項目があることを表しています。

例えば、「Code32 プライマリフォーマット」で「スタートストップキャラクタを転送する」
に設定する場合は、以下のように設定します。

設定開始 → 項目バーコード → 巻末の設定用バーコードより「4」を読み取る →
再度項目バーコード → 巻末の設定用バーコードより「6」を読み取る → 設定終了

設定例②の場合、連続して「4」「6」と読み取ると正しく設定が行えませんのでご注意ください。

◆第二章 無線接続モードについて◆

F780BTは機器と接続する為に複数の無線接続モードが用意されています。
無線接続モードについては、以下の説明をご参照ください。
導入時はPAIRモード（1対1通信）で接続されています。

他の無線接続をご希望の場合は、「無線接続設定を行うための準備」をご確認の上で
設定を行ってください。

無線接続設定を行うための準備

- ・ スキャナ本体及び通信クレードルのステータスインジケータが通信初期化状態になっていることを確認してください。

無線接続設定に必要なステータスインジケータの表示状態

スキャナ本体		通信クレードル	
状態	LED表示	状態	LED状態
初期化状態	赤と緑の点滅	初期化状態	赤と緑の点滅

◆初期化状態ではない場合◆

下記の作業を行うことで初期化状態にすることが出来ます。

- ・ スキャナ : 「アンインストール」バーコードを読み取ります。
- ・ 通信クレードル : 左にあるサイドボタンを3秒以上長押しします。

※1 : スキャナでアンインストールを読み取っても初期化状態にならない場合や
無線接続が出来ない場合は、工場出荷時設定を読み取ってください。

工場出荷時設定を読み取った場合、以前設定した項目は全て初期化されます。

※2 : ※1でも初期化されない場合は、スキャナの場合は一度バッテリーの抜き差し・
スマートクレードルの場合は、電源の抜き差しをして改めてお試しください。

アンインストール



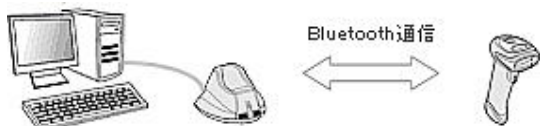
工場出荷時設定



◆PAIR モード◆

このモードは、F780BT 本体と通信充電クレードルを 1 対 1 で利用するモードです。
接続する機器に Bluetooth アダプタ等が無くても簡単にご使用いただけます。

接続図：（1 対 1 通信のみ）



◆接続設定手順◆

- ①：上記の図のように機器を接続してください。
- ②：先に説明した「無線接続設定を行う準備」をご覧頂き無線初期化状態にしてください。

※：「工場出荷時設定」コマンドを利用して初期化を行うとポップアップで
「新しいハードウェアの検出ウィザード」の要求が入る場合があります。
USB(COM)インターフェース以外でご利用の場合は“キャンセル”してください。

- ③：「PAIR モード」バーコードコマンドを読み取り、すぐにスキャナ本体をスマート
クレードルにセットしてください。
(無線接続の失敗・20 秒以上スマートクレードルにセットされなかった場合は、
2 回のビープ音が鳴り無線接続モードを解除してしまいます)



PAIR モード

- ④：スキャナがクリック音を鳴らし始め、4 回の上昇音が鳴ると無線接続が完了します。
(この段階で 4 回の上昇音が鳴らない場合は、無線接続が出来ていません。
「無線接続設定を行う準備」をご確認の上、改めて設定を行ってください。)
- ⑤：ご使用のインターフェース設定とキーボードレイアウト設定してください。

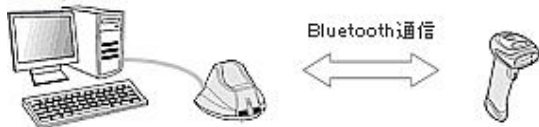
ここで、PAIR モードの設定が完了となります。
ご使用目的のバーコードで読み取り確認を行ってください。

◆PICO モード◆

このモードは、スマートクレードルを1台に対してスキャナ本体を最大で7台で利用することが出来る無線接続モードです。

接続する機器に Bluetooth アダプタ等が無くても簡単にご使用いただけます。

接続図：(スマートクレードル1台：スキャナ最大で7台)



◆接続設定手順◆

①：上記の図のように機器を接続してください。

②：先に説明した「無線接続設定を行う準備」をご覧頂き接続するスキャナ全て及びスマートクレードルを無線初期化状態にしてください。

※：「工場出荷時設定」コマンドを利用して初期化を行うとポップアップで「新しいハードウェアの検出ウィザード」の要求が入る場合があります。
USB(COM)インターフェース以外でご利用の場合は“キャンセル”してください。

③：「PICO モード」バーコードコマンドを読み取り、すぐにスキャナ本体をスマートクレードルにセットしてください。

※2：無線接続の失敗・20秒以上スマートクレードルにセットされなかった場合は、2回のビープ音が鳴り無線接続モードを解除してしまいます。



PICO モード

④：スキャナがクリック音を鳴らし始め、4回の上昇音が鳴ると無線接続が完了します。

※：この段階で4回の上昇音が鳴らない場合は、無線接続が出来ていません。
「無線接続設定を行う準備」をご確認の上、改めて設定を行ってください。

⑤：複数台の設定を行う場合、2台目以降のスキャナで③・④を繰り返してください。

⑤：ご使用のインターフェース設定とキーボードレイアウト設定してください。
複数台の中の1台で設定すれば全てのスキャナに適用されます。

ここで、PICO モードの設定が完了となります。

ご使用目的のバーコードで読み取り確認を行ってください。

◆PICO モードに関連する機能設定◆

◆Clone コマンド (クローンコマンド) ◆

PICO モードを利用する場合、各スキャナは個別に項目設定する必要があります。
 しかし、クローンコマンドを使用することで下記に記載する項目設定は接続されている
 複数台のスキャナにコピーすることが出来ます。

ホストインターフェース	
キーボードインターフェースコントロール	
キーボードレイアウト・インターメッセージディレイ・インターファンクションディレイ インターキャラクターディレイ・キャプスロックコントロール キャプスロックリリースコントロール・ファンクションキーエミュレーション キーパッドエミュレーション・アッパー/ロウアーケース	
シリアルインターフェースコントロール	ワンドエミュレーションコントロール
ハンドシェイキングプロトコル インターメッセージディレイ インターファンクションディレイ インターキャラクターディレイ ボーレート・データフレーム タイムアウトコントロール	アウトプットポラリティ イニティアルシグナルステート マージンタイム モジュールタイム ナロー/ワイドレティオ Code39 エミュレーション

※クローンコマンドは接続する全てのスキャナの無線接続が完了した後に設定が可能です。

◆設定手順◆

- ①: 複数台の無線接続を行った中の1台にご希望の設定を行ってください。
- ②: 設定を行ったスキャナ本体で、「Save Configuration」を読み取ってください。



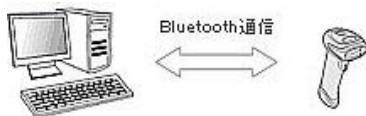
- ③: 他の無線接続されているスキャナ本体で「Clon」を読み取ります。
②で設定されたスキャナの設定項目がコピーされます。



◆HID モード◆

このモードは、予めホストデバイスに Bluetooth モジュールが搭載されている場合や Bluetooth 機器が接続されている場合に利用できます。(Bluetooth HID プロファイル)
無線接続は、ホストデバイスとスキャナの Bluetooth 接続となります。
専用のシリアル変換ソフトウェアが必要なく接続が完了したらすぐにご利用頂けます。

接続図：(ホストデバイス 1 台：スキャナ 1 台：充電用クレードル 1 台)



◆接続設定手順◆

①：先に説明した「無線接続設定を行う準備」をご覧頂き接続するスキャナを無線初期化状態にしてください。

②：「HID モード」バーコードコマンドを読み取り無線接続の待機状態にしてください。

※リンクインジケータが早い青点滅状態になります。



③：ホストデバイスで「Bluetooth 機器検索」を実行して、「CINO FxxxBT-xxxx」を発見してください。

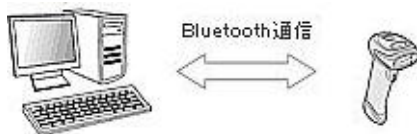
④：「CINO FxxxBT-xxxx」を選択して接続を開始すると、セキュリティ PIN コードが要求されますので設定されている PIN コードを入力してください。(初期値：00000000)
PIN コード入力後に 4 回の上昇音が鳴れば無線接続が完了します。

※：この段階で 4 回の上昇音が鳴らない場合は、無線接続が出来ていません。
「無線接続設定を行う準備」をご確認の上、改めて設定を行ってください。

◆SPP マスターモード◆

このモードは、予めホストデバイスに Bluetooth モジュールが搭載されている場合や Bluetooth 機器が接続されている場合に利用できます。(Serial Port プロファイル)
無線接続は、ホストデバイスとスキャナの Bluetooth 接続となります。
専用のシリアル変換ソフトウェアが必要となります。

接続図：(ホストデバイス 1 台：スキャナ 1 台：充電用クレードル 1 台)



◆接続設定手順◆

①：先に説明した「無線接続設定を行う準備」をご覧頂き接続するスキャナを無線初期化状態にしてください。

②：「SPP Master Mode」バーコードコマンドを読み取ります。



③：次のページにあるバーコードより 12 桁の MAC アドレス設定して下さい。

※：MAC アドレスの設定参考例も記載しております。

※：リンクインジケータが早い青点滅状態になります。

③：ホストデバイスで「Bluetooth 機器検索」を実行して、「CINO FxxxBT-xxxx」を発見してください。

④：「CINO FxxxBT-xxxx」を選択して接続を開始すると、セキュリティ PIN コードが要求されますので設定されている PIN コードを入力してください。(初期値：00000000)

※：無線接続が正常に行えない場合は、「無線接続設定を行う準備」をご確認の上、改めて設定を行ってください。

◆設定用バーコード◆



0



8



4



C



1



9



5



D



2



A



6



E



3



B



7



F



セット

設定例：MAC アドレスを 12345A789012 に設定したい場合

手順1：設定用バーコード読み取り（MAC アドレス設定）

1 → 2 → 3 → 4 → 5 → A →
7 → 8 → 9 → 0 → 1 → 2

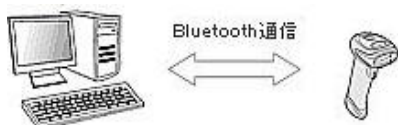
手順2：「セット」バーコードを読み取る（MAC アドレスセット）

※セットを読み込むと無線接続の待機状態となります。

◆SPP スレーブモード◆

このモードは、予めホストデバイスに Bluetooth モジュールが搭載されている場合や Bluetooth 機器が接続されている場合に利用できます。(Serial Port プロファイル)
無線接続は、ホストデバイスとスキャナの Bluetooth 接続となります。
専用のシリアル変換ソフトウェアが必要となります。

接続図：(ホストデバイス 1 台：スキャナ 1 台：充電用クレードル 1 台)



◆接続設定手順◆

①：先に説明した「無線接続設定を行う準備」をご覧頂き接続するスキャナを無線初期化状態にしてください。

②：「SPP Slave Mode」バーコードコマンドを読み取ります。

※：リンクインジケータが早い青点滅状態になります。



③：ホストデバイスで「Bluetooth 機器検索」を実行して、「CINO FxxxBT-xxxx」を発見してください。

④：「CINO FxxxBT-xxxx」を選択して接続を開始すると、セキュリティ PIN コードが要求されますので設定されている PIN コードを入力してください。(初期値：00000000)

※：無線接続が正常に行えない場合は、「無線接続設定を行う準備」をご確認の上、改めて設定を行ってください。

◆第三章 動作モードについて◆



◆アウトレンジスキャニングモード◆

アウトオブスキャニングモードは読み取ったバーコードデータをリアルタイムに送信するモードです。導入時はこのモードとなります。

◆無線エリア圏外設定◆

この設定は、スキャナが無線エリア圏外になったときのスキャナの読み取りに関する設定を行えます。

アウトオブレンジモードでは無線エリア圏外に出るとスキャナは4回の下降音でお知らせします。再度、無線エリア圏内に入ると4回の上昇音でお知らせします。

無線エリア圏外に出ても読み取り可能	 Enable Out-of-range Scanning
無線エリア圏外に出たら読み取り不可 ◆初期値◆	 Disable Out-of-range Scanning ◆

※：“Enable Out-of-range Scanning” の設定した際のデータについて
無線エリア圏外で読み取ったバーコードデータは、再度エリア圏内に入ると自動的に再送信します。

◆ バッチスキャンニングモード ◆

バッチスキャンニングモードは EAN-13 シンボルで最大 20,000 件のデータを蓄積することが出来ます。棚卸しや在庫管理などのアプリケーションで理想的な運用が可能となります。

バッチスキャンニングで利用する場合、「Enter Batch Scanning」を読み取ってください。読み取ったバーコードデータは、スキャナ内部のメモリに蓄積されます。

「Exit Batch Scanning」を読み取るとアウトオブスキャンニングモードに移行します。



※：蓄積されたデータが最大値になると、2 回のピープ音とステータスインジケータの 2 回の赤点滅でお知らせします。



◆ 蓄積したデータの転送コマンド ◆

スキャナは “Transmit Stored Data” コマンドを読み取ると蓄積されたすべてのデータを送信します。データを転送が完了すると 2 回のクリック音を鳴らします。





◆ 蓄積したデータの削除コマンド ◆

削除コマンドでは読み取り中に間違っただデータの取得や同じバーコードを 2 度読み取った際等に、有効な削除コマンドです。

最後に読み取ったデータのみ削除 (2 つ前のデータは削除出来ません。)	 Delete Last Scanned Data
全ての蓄積データの削除	 Clear All Stored Data

◆蓄積したデータの転送設定◆

蓄積したデータを送信する際の動作の設定となります。
 該当項目を読み取っていただくことで設定が追加されます。

<p>“Transmit Stored Data”を読み取って蓄積した バーコードデータを送信します。◆初期値◆</p>	 Transmit Stored Data by Scanning Barcode Command ◆
<p>スマートクレードルにスキャナを置くと自動的 に蓄積したバーコードデータを送信します。</p>	 Transmit Stored Data by Placing Scanner onto Cradle
<p>上記記載の 2 点とも適用します。</p>	 Transmit Stored Data by Scanning Barcode or Placing Scanner onto Cradle

◆データ転送後の処理◆








蓄積データ転送後のデータの処理の設定をします。
 該当項目を読み取っていただくことで設定が追加されます。

<p>データ転送後に蓄積されたデータを削除する</p>	 Auto Delete Stored Data after Transmission
<p>データ転送後に蓄積されたデータは削除しない ◆初期値◆</p>	 Keep Stored Data after Transmission ◆

◆第四章 クイックセットアップコマンド◆


クイックセットアップコマンドはホストインターフェース・オペレーションモードを容易に設定できるコマンドです。

※クイックセットアップコマンドは設定開始バーコードから設定する必要はありません。
該当するコマンドを読み取って頂くことで設定変更が可能です。

◆ホストインターフェース◆ (PIAR モード・PICO モードのみ設定可能)	
PS/2 (DOS/V) KBW Standard Mode	PS/2 (DOS/V) KBW Turbo Mode
	
Keyboard Replacement	RS232 Serial
	
◆USB HID Standard Mode	USB HID Turbo Mode
	
USB Com Port Emulation	
	

◆トリガーオペレーションモード◆

ご利用の用途に応じてスキャナの動作モードを選択することが出来ます。
該当項目を読み取っていただくことで設定が付加されます。

Trigger Mode◆	(トリガーモード)
	
TriggerMode はトリガーを握ると発光します。 バーコードをデコードするとスキャナーは待機状態になります。	
Presentation Scanning Mode	(プレゼンテーションモード)
	
Presentation Mode は周囲の環境を利用してバーコードを自動検知するモードです。 デコード後一定時間が経過すると自動消灯しは周囲に変化があると自動発光します。 注：周囲 Lux の環境が十分でない場合、適切に動作しない場合がございます。	

◆第五章 ホストインターフェース◆

キーボードインターフェースコントロール

※下記よりお使いのコンピュータのキーボードタイプを確認して設定して下さい。



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Keyboard Layout

(キーボードレイアウト)

設定開始 → 項目バーコード →

設定用バーコード(巻末) → 設定終了



↓設定値↓

USA (QWERTY) ◆初期値◆	00
France (AZERTY)	01
Germany (QWERTZ)	02
United Kingdom – UK (QWERTY)	03
Canadian French (QWERTY)	04
Spain (Spanish QWERTY)	05
Sweden/Finland (QWERTY)	06
Portugal (QWERTY)	07
Norway (QWERTY)	08
Spain (Latin America QWERTY)	09
Italy (QWERTY)	10
Netherlands (QWERTY)	11
Denmark (QWERTY)	12
Belgium (AZERTY)	13
Switzerland-Germany (QWERTY)	14
Iceland (QWERTY)	15
Japan (DOS/V)	16
Czech (QWERTY)	17

送信フォーマット設定項目参照

Preamble	桁数	プリフィックス シンボル ID	データ	サフィックス シンボル ID	Postamble	レコード サフィックス
----------	----	--------------------	-----	-------------------	-----------	----------------



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Preamble
(プリアンブル)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了◆


		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する(1~15 キャラクタ) ※指定のキャラクタを設定する場合※ 設定開始→項目バーコード→ASCIIコード表 2 桁(P76、巻末)→セット(巻末)→設定終了		P76 参照

◆設定手順◆

Data Length Transmission
(データレングス伝送)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

エンコードデータの桁数の転送を設定できます。		
		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		0
桁数を転送する (エンコードデータが 10 桁以内の際は“0n”で転送されます。) ※エンコードデータが 99 桁の場合、3 桁で転送されます。		1



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Symbology ID Transmission
(シンボル ID トランスミッション)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

シンボル ID の転送を設定します。	
↓ 設定値 ↓	
シンボル ID を転送しない ◆初期値◆	0
プリフィックスに CINO 標準のシンボル ID を転送する	1
サフィックスに CINO 標準のシンボル ID を転送する	2
プリフィックス・サフィックスに CINO 標準のシンボル ID を転送する	3

◆設定手順◆

Postamble
(ポストアンブル)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

↓ 設定値 ↓	
設定しない ◆初期値◆	セット
設定する(1~15 キャラクタ) ※指定のキャラクタを設定する場合※ 設定開始→項目バーコード→ASCIIコード表 2 桁(P76、巻末)→セット(巻末)→設定終了	P76 参照

◆設定手順◆

Record Suffix
(レコード サフィックス)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

↓ 設定値 ↓			
None	SPACE	0	3
RETURN ◆初期値◆	ENTER (テンキー)	1	4
TAB	指定のキャラクタ (1 キャラクタ)	2	
※指定のキャラクタを設定する場合※ 設定開始 → 項目バーコード → “5” (巻末) → ASCII、HEX コード 2 桁(P76、巻末) → セット(巻末) → 設定終了		5	+
		P76 参照	



設定開始



設定終了


◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード →

設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Caps Lock

(キャプ スロック)

		↓設定値↓
Caps Lock Off ◆初期値◆		0
Caps Lock On		1
Auto (PC/AT, PS/2, Keyboard Replacement and DOS/V Machines only)		2

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード →

設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Caps Lock Release

(キャプ スロックリリース)

		↓設定値↓
Caps Lock On, Caps Off ◆初期値◆		0
Caps Lock On, Shift Off		1


◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード →

設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Inter message Delay

(インターメッセージデレイ)

<p>バーコードデータとバーコードデータの送信間隔を設定します。</p> <p>アプリケーション側での取りこぼし防止に有効な機能です。</p>		
		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する : 1~99(×10)msec 設定例 : 50(設定値)×10=500msec(0.5 秒)		数字 2 桁



設定開始




設定終了

◆設定手順◆

Inter character Delay
(インターキャラクターデレイ)

設定開始 → 項目バーコード →
設定用バーコード(巻末) → 設定終了

<p>キャラクタ(文字)とキャラクタ(文字)の送信間隔の設定をします。 送信データの桁落ち防止として有効な機能です。 (Preamble・Postamble・シンボルID・桁転送等を設定した場合にも適用されます)</p>	
	
↓設定値↓	
設定しない ◆初期値◆	セット
設定する：1~99(×5)msec 設定例：50(設定値)×5=250msec(0.25 秒)	数字2桁

◆設定手順◆

Inter function Delay
(インターファンクションデレイ)


設定開始 → 項目バーコード →
設定用バーコード(巻末) → 設定終了

<p>ファンクションキー転送後の送信間隔の設定をします。 アプリケーション側での取りこぼし防止に有効な機能です。 (Preamble・Postamble・Record Suffix等を設定した場合にも適用されます)</p>	
	
↓設定値↓	
設定しない ◆初期値◆	セット
設定する：1~99(×5)msec 設定例：50(設定値)×5=250msec(0.25 秒)	数字2桁

◆設定手順◆

Function Key Emulation
(ファンクションキーエミュレーション)

設定開始 → 項目バーコード →
設定用バーコード(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
ASCII 00-31 Keyboard function code ◆初期値◆	0
Ctrl-Output	1



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード →

設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Key Pad Emulation

(キーパッドエミュレーション)

		↓設定値↓
key pad emulation off ◆初期値◆		0
numeric output as key pad (Num Lock On) output on		1

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード →

設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Upper/Lower

(アップ・ローア)

アルファベット大文字／小文字 出力データの設定します。		
		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		0
反転して出力		1
大文字で出力		2
小文字で出力		3

シリアルインターフェースコントロール

※シリアルインターフェースの通信仕様を変更することが出来ます。

送信フォーマット設定項目参照

STX	Preamble	桁数	プリフィックス シンボル ID	データ	サフィックス シンボル ID	Postamble	ETX	レコード サフィックス
-----	----------	----	--------------------	-----	-------------------	-----------	-----	----------------



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

STX/ETX Control
(STX/ETX コントロール)

設定開始 → 項目ハーフコード →
設定用ハーフコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
STX/ETX を転送しない ◆初期値◆		0
STX/ETX を転送する		1

◆設定手順◆

Preamble
(プリアンブル)

設定開始 → 項目ハーフコード →
設定用ハーフコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する(1~15 キャラクタ) ※指定のキャラクタを設定する場合※ 設定開始→項目ハーフコード→ASCIIコード表 2 桁(P76、巻末)→セット(巻末)→設定終了		P76 参照



設定開始




設定終了

◆設定手順◆

Data Length Transmission
(データレングス伝送)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

エンコードデータの桁数の転送を設定できます。	
	
↓設定値↓	
設定しない ◆初期値◆	0
桁数を転送する (エンコードデータが 10 桁以内の際は“0n”で転送されます。) ※エンコードデータが 99 桁の場合、3 桁で転送されます。	1

◆設定手順◆

Symbology ID Transmission
(シンボル ID 伝送)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

シンボル ID の転送を設定します。	
	
↓設定値↓	
シンボル ID を転送しない ◆初期値◆	0
プリフィックスに CINO 標準のシンボル ID を転送する	1
サフィックスに CINO 標準のシンボル ID を転送する	2
プリフィックス・サフィックスに CINO 標準のシンボル ID を転送する	3

◆設定手順◆

Postamble
(ポストアンブル)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
設定しない ◆初期値◆	セット
設定する(1~15 キャラクタ) ※指定のキャラクタを設定する場合※ 設定開始→項目バーコード→ASCIIコード表 2 桁(P76、巻末)→セット(巻末)→設定終了	P76 参照



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Record Suffix
(レコードサフィックス)

設定開始 → 項目^hコード^h
→ 設定用^hコード^h(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
None		0
CR (0DH) ◆初期値◆		1
LF (0AH)		2
CRLF (0D0AH)		3
TAB (09H)		4
SPACE (20H)		5
ユーザー指定のキャラクタ (1 キャラクタ) ※指定のキャラクタを設定する場合※ 設定開始 → 項目 ^h コード ^h → “6” (巻末) → ASCII、HEX コード 2 桁(P76、巻末) → セット(巻末) → 設定終了		6 + P76 参照

◆設定手順◆

Inter message Delay
(インターメッセージディレイ)

設定開始 → 項目^hコード^h
→ 設定用^hコード^h(巻末) → 設定終了

バーコードデータとバーコードデータの送信間隔を設定します。 アプリケーション側での取りこぼし防止に有効な機能です。	
↓設定値↓	
設定しない ◆初期値◆	セット
設定する : 1~99(×10)msec 設定例 : 50(設定値)×10=500msec(0.5 秒)	数字 2 桁



設定開始



設定終了


◆設定手順◆

Inter character Delay

(インターキャラクタディレイ)

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

<p>キャラクタ(文字)とキャラクタ(文字)の送信間隔の設定をします。 送信データの桁落ち防止として有効な機能です。 (Preamble・Postamble・シンボルID・桁転送等を設定した場合にも適用されます)</p>	
	
↓設定値↓	
設定しない ◆初期値◆	セット
設定する：1~99(×5)msec 設定例：50(設定値)×5=250msec(0.25秒)	数字2桁


◆設定手順◆

Inter function Delay

(インターファンクションディレイ)

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

<p>ファンクションキー転送後の送信間隔の設定をします。 アプリケーション側での取りこぼし防止に有効な機能です。 (Preamble・Postamble・Record Suffix等を設定した場合にも適用されます)</p>	
	
↓設定値↓	
設定しない ◆初期値◆	セット
設定する：1~99(×5)msec 設定例：50(設定値)×5=250msec(0.25秒)	数字2桁

◆設定手順◆

Handshaking Protocol

(ハンドシェイクプロトコル)

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
None (free running mode) ◆初期値◆	0
RTS/CTS (hardware handshaking)	1
ACK/NAK (software handshaking)	2
Xon/Xoff (software handshaking)	3



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Baud Rate (BPS)
(ボーレート)

設定開始 → 項目ハコート

→設定用ハコート(巻末) → 設定終了

↓設定値↓			
38400 BPS	2400 BPS	0	4
19200 BPS	1200 BPS	1	5
9600 BPS ◆初期値◆	57600 BPS	2	8
4800 BPS	115200 BPS	3	9

◆設定手順◆

Data Frame
(データフレーム)

設定開始 → 項目ハコート

→設定用ハコート(巻末) → 設定終了

↓設定値↓			
8, None, 1 ◆初期値◆	7, Space, 1	0	8
8, Odd, 1	7, Mark, 1	1	9
8, Even, 1	7, None, 2	2	A
8, Space, 1	7, Odd, 2	3	B
8, Mark, 1	7, Even, 2	4	C
8, None, 2	7, Space, 2	5	D
7, Odd, 1	7, Mark, 2	6	E
7, Even, 1		7	



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Serial Response Time-out

(シリアルレスポンスタイムアウト)

設定開始 → 項目ハーフコート

→設定用ハーフコート(巻末) → 設定終了

↓設定値↓			
None	1 (sec)	0	3
200 (msec)	2 (sec)	1	4
500 (msec) ◆初期値◆	5 (sec)	2	5
任意のタイムアウト(秒) ※指定のキャラクタを設定する場合※ 設定開始 → 項目ハーフコート → “6” (巻末) → 数字 2 桁(巻末) → セット(巻末) → 設定終了		6 + 数字 2 桁	

ワンドエミュレーション

※ワンドエミュレーションの通信仕様を設定することが出来ます。



設定開始



設定終了


◆設定手順◆

Output Polarity

(アウトプットポラリティ)

設定開始 → 項目ハート

→設定用ハート(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓	
High level (5Vdc) Bar (low level on Space) ◆初期値◆		0	
Low level (0Vdc) Bar (high level on Space)		1	

◆設定手順◆

Initial Signal

(イニシャルシグナルステート)

設定開始 → 項目ハート

→設定用ハート(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓	
High Level (5Vdc) ◆初期値◆		0	
Low Level (0Vdc)		1	


◆設定手順◆

Margin Time

(マージンタイム)

設定開始 → 項目ハート

→設定用ハート(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓	
10 (msec)	30 (msec)	0	4
15 (msec)	50 (msec)	1	5
20 (msec) ◆初期値◆	100 (msec)	2	6
25 (msec)		3	



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Module Time
(モジュールタイム)

設定開始 → 項目ハーフコート
→設定用ハーフコート(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
Ex short		0
Short		1
Medium ◆初期値◆		2
Long		3

◆設定手順◆

Narrow/Wide Ratio
(ナロー/ワイドレティオ)

設定開始 → 項目ハーフコート
→設定用ハーフコート(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
1:2 ◆初期値◆		0
1:2.5		1
1:3		2

◆設定手順◆

Code 39/Code128 Emulation
(Code 39/Code128 エミュレーション)

設定開始 → 項目ハーフコート
→設定用ハーフコート(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
Disable standard Code 39 emulation ◆初期値◆		0
Enable standard Code 39 skip emulation		1
Enable standard Code 39 replace emulation		2
Enable Full ASCII Code 39 emulation		3
Enable Code 128 emulation		4

◆第六章 オプションコントロール◆

※下記パラメータよりオプションコントロールを設定できます



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Buzzer
(ブザー)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

起動音の設定・読み取り音の音程の調整ができます。



↓設定値↓

無し	0
低音	1
中音 ◆初期値◆	2
高音	3
最高音	4
起動音を鳴らす。 ◆初期値◆	5
起動音を鳴らさない。	6

◆設定手順◆

Beeping Control

(ビーピングコントロール)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

無線接続音・ローバッテリー音の有無の設定をします。



↓設定値↓

無線接続／無線切断のビーブ音を鳴らす。 ◆初期値◆	0
無線接続／無線切断のビーブ音を鳴らさない。	1
バッテリー残量低下のビーブ音を鳴らす。 ◆初期値◆	2
バッテリー残量低下のビーブ音を鳴らさない。	3



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Good Read Duration

(グッドリードデュレーション)

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

読み取り音の長さを調整できます。	
	
↓設定値↓	
Short(短い)	0
Medium(標準) ◆	1
Long(長い)	2
Extremely Long(非常に長い)	3
Extremely Short(非常に短い)	4

◆設定手順◆

Power On Indicator

(パワーオンインジケータ)

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

パワーインジケータの LED 表示の設定が変更できます。	
	
↓設定値↓	
Power on, LED Off	0
Power LED steady On ◆初期値◆	1
Power LED flash	2



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Redundancy (Scan Voting)

(リダンダンシー)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

読み取り一致回数の設定を変更できます。	
	
↓ 設定値 ↓	
None	0
Level 1 ◆初期値◆	1
Level 2	2
Level 3	3
Level 4	4
Level 5	5


◆設定手順◆

Inverse Reading

(インバースリーディング)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

白黒反転バーコードの読み取り設定を変更できます。	
	
↓ 設定値 ↓	
設定しない ◆初期値◆	0
設定する	1

◆設定手順◆

Reread Delay

(リリードディレイ)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

同一バーコードを読み込むまでの間隔を設定変更できます。			
			
↓ 設定値 ↓			
Disable	Medium time out	0	3
Immediate time out	Long time out	1	4
Short time out ◆初期値◆	Force verification	2	5



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Good Read Delay
(グッドリードディレイ)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

別のバーコードを読み込むまでの間隔を設定変更できます。



↓設定値↓

None(設定しない) ◆初期値◆	1.5sec(1.5 秒)	0	4
200 msec.(0.2 秒)	2sec(2 秒)	1	5
500 msec.(0.5 秒)	3sec(3 秒)	2	6
1 sec.(1 秒)		3	

◆設定手順◆

Light Source On Time
(ライトソースオンタイム)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

読み取り LED の発光時間の調整ができます。

(Presentation Mode 設定時に有効)



↓設定値↓

Short ◆初期値◆	Long	0	2
Medium	Extremely long	1	3

◆設定手順◆

Hands Free Time-out
(ハンズフリータイムアウト)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

マニュアルトリガーモードの状態を維持する時間を設定変更できます。

(ハンズフリーモード使用時のみ)



↓設定値↓

Short ◆初期値◆	Long	0	2
Medium	Extremely long	1	3
設定しない		4	



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Time Delay to Low Power Trigger
(タイムディレイローパワートリガー)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

スキャン後に省電力状態に移行する時間を設定できます。



↓設定値↓

1sec	7secs	0	3
3secs	9secs	1	4
5secs	設定しない ◆初期値◆	2	5

◆設定手順◆

Scan Rate Control
(スキャンレートコントロール)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

読み取り環境に合わせた設定をします。



↓設定値↓

Dynamic ◆初期値◆	0
Fixed	1



設定開始



設定終了

Presentation Auto-sense

(プレゼンテーションオートセンス)

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

スマートスタンドにセットしたときのバーコード自動検知の設定をします。



↓設定値↓

設定しない ◆初期値◆

0

設定する

1

◆設定手順◆

Presentation Sensitivity

(プレゼンテーションセンシビリティ)

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

プレゼンテーションモード使用時のバーコードの感度調整をします。



↓設定値↓

レベル 1

レベル 5 ◆初期値◆

0

4

レベル 2

レベル 6

1

5

レベル 3

レベル 7

2

6

レベル 4

3

◆設定手順◆

Good Read Indicator

(グッドリードインジケータ)

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

グッドリードインジケータの点灯を設定します。



↓設定値↓

点灯しない

0

点灯する ◆初期値◆

1



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Vibrator Control
(バイブレーターコントロール)

バイブレーターの ON・OFF の設定をします。



↓設定値↓

OFF	0
ON ◆初期値◆	1

◆第七章 無線通信オプションコントロール◆

※下記パラメータよりオプションコントロールを設定できます



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Link Supervision Time - out

(リンクスーパービジョンタイムアウト)

設定開始 → 項目バーコード*

→ 設定用バーコード*(巻末) → 設定終了

スキャナが無線通信接続状態を確認する時間を設定できます。

(PAIR モード・PICO モードのみ設定可能)



↓ 設定値 ↓

1 秒	7 秒	0	3
3 秒 ◆初期値◆	9 秒	1	4
5 秒		2	

◆設定手順◆

Sleep Time—out of Connect State

(スリープタイムアウトオブコネクテーステート)

設定開始 → 項目バーコード*

→ 設定用バーコード*(巻末) → 設定終了

スキャナがスリープに入る時間を設定できます。

(HB2110 スマートクレードル (Base) の電源が ON の時)



↓ 設定値 ↓

30 分 ◆初期値◆		セット
0～99(×5 分)	設定例：設定値：10×5 分=50 分	数字 2 桁

◆設定手順◆

Sleep Time—out of Disconnect State

(スリープタイムアウトディスコネクテーステート)

設定開始 → 項目バーコード*

→ 設定用バーコード*(巻末) → 設定終了

スキャナがスリープに入る時間を設定できます。

(HB2110 スマートクレードル (Base) の電源が OFF の時)



↓ 設定値 ↓

1 分 ◆初期値◆		セット
0～99 分		数字 2 桁



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Bluetooth Device Name

(Bluetooth デバイス名)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Bluetooth デバイスの名称を設定できます。	
	
↓ 設定値 ↓	
初期値の名称 ◆初期値◆	セット
任意の名称 1~16 キャラクタ ※指定のキャラクタを設定する場合※ 設定開始 → 項目バーコード → ASCII コード表(巻末) → セット(巻末) → 設定終了	P76 参照


◆設定手順◆

Bluetooth PIN Code

(Bluetooth PIN コード)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

PIN コードの任意設定ができます。	
	
↓ 設定値 ↓	
00000000 ◆初期値◆	セット
任意の PIN コード 1~8 キャラクタ ※任意の PIN コードを設定する場合※ 設定開始 → 項目バーコード → 数字 x 桁(巻末)「HEX(30-39)」 → セット(巻末) → 設定終了	数字 x 桁


◆設定手順◆

Bluetooth Authentication

(Bluetooth オーセンティケーション)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Bluetooth の認証設定ができます。	
	
↓ 設定値 ↓	
未認証	0
認証 ◆初期値◆	1



PROGRAM

◆設定手順◆

HID Link Quality Setting
(HID クオリティセッティング)


設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

使用中に無線が切断された際にデータの誤転送を防ぎます。(HID モードのみ)	
	
↓ 設定値 ↓	
無効	0
有効 ◆初期値◆	1

◆設定手順◆

Bluetooth Power Saving Mode
(Bluetooth パワーセービングモード)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Bluetooth モジュールの低消費モードに設定ができます	
	
↓ 設定値 ↓	
無効 ◆初期値◆	0
有効	1

◆第八章 シンボルコード I D◆

※ユーザー指定のコード I Dに関する設定をします。

例：JAN-13 のシンボル ID を “Z” に変更したい場合は、
 設定開始 → 項目コード → 設定用バーコード 03 (巻末) → 設定用バーコード 5A (巻末)
 → セット (巻末) → 設定終了 と設定をします。

※1：03 は以下の表を参照した EAN-13 のシンボル ID コードです。

※2：5A は P76 の ASCII コード表を参照した Z の HEX コードです。



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Symbol ID character
 (シンボル ID キャラクター)

設定開始 → 項目バーコード →
 設定用バーコード (シンボル ID) (巻末) →
 設定用バーコード (任意のキャラクタ) (P76, 巻末) →
 セット → 設定終了

シンボル ID の任意設定をします。



↓ 設定値 ↓

Code 128 (B)	German Postal Code (M)	00	11
UCC/EAN-128 (C)	IATA (O)	01	12
UPC-A (A)	Code 11 (P)	02	13
EAN-13 (F)	MSI/Plessey (R)	03	14
Codabar/NW-7 (D)	UK/Plessey (S)	04	15
Code 39/Code 32 (G)	Telepen (T)	05	16
Code 93 (H)	GS1 DataBar (X)	06	17
Standard/Industrial 2 of 5 (I)	UPC-E (E)	07	18
Interleaved 2 of 5 (J)	EAN-8 (N)	08	19
Matrix 2 of 5 (K)	Trioptic Code 39(W)	09	20
China Postal Code (L)	UCC Coupon Extended Code(Z)	10	21

読み取りシンボル

※読み取りシンボルの設定をします。

例：Code128 と EAN-13 のみ読み取りを行いたい場合

設定開始 → 項目バーコード → 設定用バーコード 01(巻末) → 設定用バーコード 03(巻末) → セット → 設定終了

※1：01 は以下の表を参照した Code128 のシンボル ID コードです。

※2：03 は以下の表を参照した EAN-13 のシンボル ID コードです。

※3：読み取りシンボルを増やしていく場合は、セットの前に連続して希望の ID コードを読み取ります。



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Readable Symbology Setting

(リーダブルシンボロジーセッティング)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → セット

→ 設定終了

この設定で読み取るシンボル体系を制限することが出来ます。
(特定のシンボル体系のみ読み取りを行う際に有効な設定です。)



↓設定値↓

各コードを自動的に認識する ◆初期値◆	Interleaved 2of 5	00	48
Code 128	China Postal Code	01	58
UPC-A	German Postal Code	02	68
UPC-E	Code 93	03	09
EAN-13	Code 11	04	10
EAN-8	MSI/Plessey	05	11
Codabar/NW-7	UK/Plessey	06	12
Code 39	Telepen	07	13
Triopic Code 39	GS1 Databar (RSS-14)	47	14
Standard/Industrial 2of 5	IATA	08	15
Matrix 2 of 5		38	

◆第九章 シンボル◆

※ユーザー指定のシンボルに関する設定します。



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Code 39

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了



↓ 設定値 ↓

Code 39 読まない	0
Code 39 読む ◆初期値◆	1
Code 39 スタンダードプライマリフォーマット ◆初期値◆	2
Full ASCII Code 39 プライマリフォーマット	3
Code 32 プライマリフォーマット	4
スタートストップキャラクタを転送しない ◆初期値◆	5
スタートストップキャラクタを転送する	6
Code 32 「A」を転送しない ◆初期値◆	7
Code 32 「A」を転送する	8
モジュラス 43 で計算しない ◆初期値◆	9
モジュラス 43 で計算する	A
チェックデジットを転送しない(終端文字を転送しない) ◆初期値◆	B
チェックデジットを転送する (終端文字を転送する)	C
Code 39 バッファリングを使用しない ◆初期値◆	D
Code 39 バッファリングを使用する	E



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Trioptic Code 39

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
Trioptic Code 39 読まない ◆初期値◆	0	
Trioptic Code 39 読む	1	

◆設定手順◆

Code 39 最小桁数

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (01) ◆初期値◆	セット	
最小設定桁数(01)	数字 2 桁	

◆設定手順◆

Code 39 最大桁数

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値(98) ◆初期値◆	セット	
最大設定桁数(98)	数字 2 桁	

※Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII は同時に使用することは出来ません。



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Codabar(NW-7)

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

	
↓ 設定値 ↓	
Codabar 読まない	0
Codabar 読む ◆初期値◆	1
Codabar スタANDARDフォーマット ◆初期値◆	2
Codabar ABC フォーマット	3
Codabar CLSI フォーマット	4
Codabar CX フォーマット	5
スタートストップキャラクタを転送しない ◆初期値◆	6
スタートストップキャラクタを ABCD/ABCD で転送する	7
スタートストップキャラクタを abcd/abcd で転送する	8
スタートストップキャラクタを ABCD/TN*E で転送する	9
スタートストップキャラクタを abcd/tn*e で転送する	A
チェックデジットを計算しない ◆初期値◆	B
チェックデジットを計算する	C
チェックデジットを転送しない (終端文字を転送しない) ◆初期値◆	D
チェックデジットを転送する (終端文字を転送する)	E



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Codabar 最小桁数

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (04) ◆初期値◆	セット	
設定最小桁数(01)	数字 2 桁	

◆設定手順◆

Codabar 最大桁数

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (98) ◆初期値◆	セット	
設定最大桁数(98)	数字 2 桁	



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

UPC

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

	
↓ 設定値 ↓	
UPC-A を読まない	0
UPC-A を読む ◆初期値◆	1
UPC -E を読まない	2
UPC -E を読む ◆初期値◆	3
UPC-E を UPC-A に変換しない ◆初期値◆	4
UPC-E を UPC-A に変換する	5
UPC を EAN に変換しない ◆初期値◆	6
UPC を EAN に変換する	7
UPC システムナンバーを転送しない	8
UPC-システムナンバーを転送する ◆初期値◆	9
UPC-A チェックデジットを転送しない	A
UPC-A チェックデジットを転送する ◆初期値◆	B
UPC-E チェックデジットを転送しない	C
UPC-E チェックデジットを転送する ◆初期値◆	D
先頭桁が“1”の場合は UPC と識別しない ◆初期値◆	E
先頭桁が“1”の場合は UPC と識別する	F



設定開始



設定終了

UPC アドオンの設定

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード*

→設定用バーコード*(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
UPC アドオンなし ◆初期値◆	0
UPC アドオン 2桁を読む	1
UPC アドオン 5桁を読む	2
UPC アドオン 2/5桁を読む	3
UPC アドオンが追加されていないコードも読む ◆初期値◆	4
UPC アドオンが追加されていないコードは読まない	5
UPC アドオン先頭桁にスペースを追加しない ◆初期値◆	6
UPC アドオン先頭桁にスペースを追加する	7

◆設定手順◆

EAN/JAN

設定開始 → 項目バーコード*

→設定用バーコード*(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
EAN-13 を読まない	0
EAN-13 を読む ◆初期値◆	1
EAN-8 を読まない	2
EAN-8 を読む ◆初期値◆	3
EAN-8 を EAN-13 に変換しない ◆初期値◆	4
EAN-8 を EAN-13 に変換する	5
EAN-13 チェックデジットを転送しない	6
EAN-13 チェックデジットを転送する ◆初期値◆	7
EAN-8 チェックデジットを転送しない	8
EAN-8 チェックデジットを転送する ◆初期値◆	9
ISBN/ISSN に変換しない ◆初期値◆	A
ISBN/ISSN に変換する	B



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

EAN アドオンの設定

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
EAN アドオンなし ◆初期値◆	0
EAN アドオン 2桁を読む	1
EAN アドオン 5桁を読む	2
EAN アドオン 2/5を読む	3
EAN アドオンが追加されているコードを読まない ◆初期値◆	4
EAN アドオンが追加されているコードを読む	5
EAN/JAN アドオン先頭桁にスペースを追加しない ◆初期値◆	6
EAN/JAN アドオン先頭桁にスペースを追加する	7

◆設定手順◆

EAN 追加設定

設定開始 → 項目^h-コード^h

(新雑誌コード設定)

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
設定しない ◆初期値◆	0
全てのアドオン追加バージョンのみ読む	1
先頭 491 のアドオン追加バージョンのみ読む	2
先頭 978/979 のアドオン追加バージョンのみ読む	3
先頭 977 のアドオン追加バージョンのみ読む	4
先頭 378/379 のアドオン追加バージョンのみ読む	5
先頭 414/419 のアドオン追加バージョンのみ読む	6
先頭 434/439 のアドオン追加バージョンのみ読む	7



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

UPC/EAN Security Label
(UPC/EAN セキュリティレベル)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓	
レベル 0		0	
レベル 1 ◆初期値◆		1	
レベル 2		2	

◆設定手順◆

Supplement Scan Voting
(サブリメントスキャンボウティング)

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

				↓設定値↓	
None	レベル 7	0	7		
レベル 1	レベル 8	1	8		
レベル 2	レベル 9	2	9		
レベル 3 ◆初期値◆	レベル 10	3	A		
レベル 4	レベル 11	4	B		
レベル 5	レベル 12	5	C		
レベル 6	レベル 13	6	D		

◆設定手順◆

UCC Coupon Extended

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓	
UCC Coupon Extended 読まない ◆初期値◆		0	
UCC Coupon Extended 読む		1	

※UCC Coupon Code を有効にすると UPC-A 先頭桁「5」と EAN-13 先頭桁「99」から始まるコードを読み取ります。

この設定を有効にするには、UPC-A・EAN13 及び EAN-128 の全ての読み取りを許可しなければなりません。



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

IATA

	
↓ 設定値 ↓	
IATA 読まない ◆初期値◆	0
IATA 読む	1
15桁の IATA を検査する ◆初期値◆	2
可変長の IATA を読む	3
チェックデジットを検査しない ◆初期値◆	4
チェックデジットを検査する	5
S/N のみを検査する	6
CAN のみを検査する	7
S/N・CAN を検査する	8
チェックデジットを転送しない ◆初期値◆	9
チェックデジットを転送する	A
スタートストップキャラクタを転送しない ◆初期値◆	B
スタートストップキャラクタを転送する	C

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード

→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

Interleaved 2 of 5

	
↓ 設定値 ↓	
Interleaved 2 of 5 読まない	0
Interleaved 2 of 5 読む ◆初期値◆	1
Interleaved 2 of 5 プライマリフォーマット ◆初期値◆	2
German Postal プライマリフォーマット	3
チェックデジット無し ◆初期値◆	4
USS チェックデジット有効	5
OPCC チェックデジット有効	6
チェックデジットを転送しない ◆初期値◆	7
チェックデジットを転送する	8



設定開始




設定終了

◆設定手順◆

Code 25

設定開始 → 項目ハーフコート

→設定用ハーフコート(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
Standard/industrial 2 of 5 読まない ◆初期値◆		0
Standard/industrial 2 of 5 読む		1
Matrix 2 of 5 読まない ◆初期値◆		2
Matrix 2 of 5 読む		3
China Postal Code 読まない ◆初期値◆		4
China Postal Code 読む		5
チェックデジットを検査しない ◆初期値◆		6
チェックデジットを検査する		7
チェックデジットを転送しない(終端文字を転送しない) ◆初期値◆		8
チェックデジットを転送する(終端文字を転送する)		9

◆設定手順◆

Code 25 最小桁数

設定開始 → 項目ハーフコート

→設定用ハーフコート(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値(04) ◆初期値◆		セット
設定最小桁数(01)		数字2桁

◆設定手順◆

Code 25 最大桁数

設定開始 → 項目ハーフコート

→設定用ハーフコート(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値(98) ◆初期値◆		セット
設定最大桁数(98)		数字2桁

※Code25 を読み取る場合、誤読防止のため桁数を限定して1種類のコード体系の読み取りお勧め致します。



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Code 11

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了


	
↓設定値↓	
Code11 読まない ◆初期値◆	0
Code11 読む	1
チェックデジットを計算しない ◆初期値◆	2
1桁目のチェックデジットを計算する	3
2桁目のチェックデジットを計算する	4
チェックデジットを転送しない ◆初期値◆	5
チェックデジットを転送する	6

◆設定手順◆

Code 11 最小桁数

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了


	
↓設定値↓	
初期値 (04) ◆初期値◆	セット
設定最小桁数(01)	数字 2 桁

◆設定手順◆

Code 11 最大桁数

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
初期値(98) ◆初期値◆	セット
設定最大桁数(98)	数字 2 桁



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Code 93

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
Code93 読まない		0
Code93 読む ◆初期値◆		1
チェックデジットを転送しない ◆初期値◆		2
チェックデジットを転送する		3

◆設定手順◆

Code 93 最小桁数

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (01) ◆初期値◆		セット
設定最小桁数(01)		数字 2 桁

◆設定手順◆

Code 93 最大桁数

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (98) ◆初期値◆		セット
設定最大桁数(98)		数字 2 桁



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

MSI/Plessey

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
MSI/Plessey 読まない ◆初期値◆		0
MSI/Plessey 読む		1
モジュラス 10 で計算する ◆初期値◆		2
モジュラス 10-10 で計算する		3
モジュラス 11-11 で計算する		4
チェックデジットを転送しない ◆初期値◆		5
チェックデジットを転送する		6

◆設定手順◆

MSI/Plessey 最小桁数

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (04) ◆初期値◆		セット
設定最小桁数(01)		数字 2 桁

◆設定手順◆

MSI/Plessey 最大桁数

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (98) ◆初期値◆		セット
設定最大桁数(98)		数字 2 桁



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Code 128/EAN-128

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
Code 128 ・ UCC/EAN 28 読まない		0
Code 128 ・ UCC/EAN 28 読む ◆初期値◆		1
ファンクションコードに変換しない ◆初期値◆		2
ファンクションコードに変換する		3
ISBT 連結しない ◆初期値◆		4
ISBT 連結する		5

◆設定手順◆

Code 128/EAN-128 最小桁数

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (01) ◆初期値◆		セット
設定最小桁数(01)		数字 2 桁

◆設定手順◆

Code 128/EAN-128 最大桁数

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (98) ◆初期値◆		セット
設定最大桁数(98)		数字 2 桁



設定開始




設定終了

◆設定手順◆

UK/Plessey

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了


	
↓設定値↓	
UK/Plessey 読まない ◆初期値◆	0
UK/Plessey 読む	1
UK/Plessey スタANDARDフォーマット ◆初期値◆	2
UK/Plessey CLSI フォーマット	3
A-F を X に変換しない ◆初期値◆	4
A-F を X に変換する	5
チェックデジットを転送しない ◆初期値◆	6
チェックデジットを転送する	7

◆設定手順◆

UK/Plessey 最小桁数

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
初期値 (04) ◆初期値◆	セット
設定最小桁数(01)	数字 2 桁

◆設定手順◆

UK/Plessey 最大桁数

設定開始 → 項目^h-コード^h

→設定用^h-コード^h(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
初期値(98) ◆初期値◆	セット
設定最大桁数(98)	数字 2 桁



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Telepen

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
Telepen 読まない ◆初期値◆	0
Telepen 読む	1
Telepen 数字モード ◆初期値◆	2
Telepen Full ASCII モード	3
チェックデジットを転送しない ◆初期値◆	4
チェックデジットを転送する	5

◆設定手順◆

Telepen 最小桁数

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
初期値 (04) ◆初期値◆	セット
設定最小桁数(01)	数字 2 桁

◆設定手順◆

Telepen 最大桁数

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

	
↓設定値↓	
初期値 (98) ◆初期値◆	セット
設定最大桁数(98)	数字 2 桁



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

GS1 DataBar

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
GS1 DataBar (RSS-14) を読まない		0
GS1 DataBar (RSS-14) を読む ◆初期値◆		1
GS1 DataBar limited 読まない		2
GS1 DataBar limited を読む ◆初期値◆		3
GS1 DataBar expanded 読まない		4
GS1 DataBar expanded を読む ◆初期値◆		5

◆設定手順◆

GS1 DataBar 最小桁数

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (04) ◆初期値◆		セット
設定最小桁数(01) 利用可能な Expanded GS1 Databar.のみ設定可能。		数字 2 桁

◆設定手順◆

GS1 DataBar 最大桁数

設定開始 → 項目バーコード

→設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
初期値 (74) ◆初期値◆		セット
設定最大桁数(74) 利用可能な Expanded GS1 Databar.のみ設定可能。		数字 2 桁

◆第十章 データウィザード◆

※ユーザー指定のデータウィザードに関する設定します。
読み取ったデータの編集はこの章で設定することが出来ます。



設定開始



設定終了


◆設定手順◆

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

◆Data Formatter Setting◆

(キャラクタ付加機能)

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
特定のシンボル体系を指定して適用する シンボル体系のオプションコードは P72 を参照してください。		2桁
すべてのシンボル体系に適用する		00

◆設定手順◆

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

SET1


		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する		P72 参照

◆設定手順◆

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

SET2

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する		P72 参照



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

SET3

設定開始 → 項目ハコード

→ 設定用ハコード(巻末) → 設定終了


		↓設定値↓
設定しない◆初期値◆	セット	
設定する	P72 参照	

◆設定手順◆

SET4

設定開始 → 項目ハコード

→ 設定用ハコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない◆初期値◆	セット	
設定する	P72 参照	



設定開始



設定終了

◆Data Verifier Setting◆
(フィルタリング機能)

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バースコード
→設定用バースコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆	セット	
特定のシンボル体系を指定して適用する シンボル体系のオプションコードは P72 を参照してください。	2桁	
すべてのシンボル体系に適用する	00	

◆設定手順◆

Data Length
(データ長)

設定開始 → 項目バースコード
→設定用バースコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆	セット	
設定する (フィルタリングする固定データ長を設定してください。)	数字2桁	

◆設定手順◆

Character SET1

設定開始 → 項目バースコード
→設定用バースコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆	セット	
設定する	P73 参照	



設定開始



設定終了

◆設定手順◆

Character SET2

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する		P73 参照

◆設定手順◆

Character SET3

設定開始 → 項目ハコード

→設定用ハコード(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する		P73 参照



設定開始



設定終了

◆Data Replacer Setting◆
(キャラクタ置換機能)

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓ 設定値 ↓
設定しない ◆初期値◆		セット
特定のシンボル体系を指定して適用する シンボル体系のオプションコードは P72 を参照してください。		2桁
すべてのシンボル体系に適用する		00

◆設定手順◆

Character SET 1

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓ 設定値 ↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する		P73 参照

◆設定手順◆

Character SET 2

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓ 設定値 ↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する		P73 参照

◆設定手順◆

Character SET3

設定開始 → 項目バーコード
→ 設定用バーコード(巻末) → 設定終了

		↓ 設定値 ↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する		P73 参照



設定開始



設定終了

◆Data Organizer Setting◆
(データ構成機能)

◆設定手順◆

設定開始 → 項目バーコード*

→設定用バーコード*(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
特定のシンボル体系を指定して適用する シンボル体系のオプションコードは P72 を参照してください。		2桁
すべてのシンボル体系に適用する		00

◆設定手順◆

1st Organization

設定開始 → 項目バーコード*

→設定用バーコード*(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する		P74 参照

◆設定手順◆

2nd Organization

設定開始 → 項目バーコード*

→設定用バーコード*(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
設定しない ◆初期値◆		セット
設定する		P74 参照

◆設定手順◆

Include/Exclude Control

設定開始 → 項目バーコード*

→設定用バーコード*(巻末) → 設定終了

		↓設定値↓
指定されたポジションを送信データに含まない ◆初期値◆		0
指定されたポジションを送信データに含む		1

データウィザードエディタについて

・シンボルコマンド

データウィザードで使用するシンボルコードは下記を参照してください。

” 00 “を選択すると全てのシンボルを適用するに設定されます。

Code 128 : 01	EAN-8 : 05	Code 93 : 09
UCC/EAN 128 : 31	EAN-8 with 2 suppl. : 35	Code 11 : 10
UPC-A : 02	EAN-8 with 5 suppl. : 45	MSI/Plessey : 11
UPC-A with 2 suppl. : 32	Codabar/NW-7 : 06	UK/Plessey : 12
UPC-A with 5 suppl. : 42	Code 39 : 07	Telepen : 13
UPC-E : 03	Code 32 : 37	GS1 Data Bar : 14
UPC-E with 2 suppl. : 33	Trioptic Code 39: 47	IATA : 15
UPC-E with 5 suppl. : 43	Matrix 2 of 5 : 38	Coupon Code : 16
EAN-13 : 04	Interleaved 2 of 5 : 48	
EAN-13 with 2 suppl. : 34	China Postal Code : 58	
EAN-13 with 5 suppl. : 44	German Postal Code : 68	

データウィザードの参考例

◆Data Formatter Setting◆ (キャラクタ付加機能)

※エンコードデータ内にユーザー指定のキャラクタを付加できます。

設定例 : CODE39、「01234567890」の「45」の間に「A」を付加する。

① : CODE39 を指定

設定開始 → 項目コード(Data Formatter Setting) → Code39 指定「07」(巻末) →
設定終了

② : 位置を指定して「45」の間に「A」キャラクタを付加

設定開始 → 項目コード(SET1) →位置指定「05」 →キャラクタ指定「41」(P76,巻末)
→ セット → 設定終了

設定後の出力結果は、「0123456790」が「01234A567890」となります。

◆Data Verifier Setting◆ (フィルタリング機能)

※エンコードデータ内のキャラクタを一致チェックすることができます。

例：CODE39、「01234567890」の「4」を一致照合する。

・CODE39 を指定

設定開始 → 項目コード(Data Formatter Setting) → Code39 指定「07」(巻末) → 設定終了

・データ長指定 (任意)

設定開始 → 項目コード(DataLength) → データ長指定「11」(巻末) → セット → 設定終了

・ポジションを指定してフィルタリングをセット

設定開始 → 項目コード(character set1) → 位置指定「05」 → キャラクタ指定「34」(P76,巻末) → セット → 設定終了

設定後は Code39 で 5 桁目が 4 の場合のみ読み取りを行います。

◆Data Replacer Setting◆ (キャラクタ置換機能)

※エンコードデータ内のキャラクタを置換できます。

例：CODE39、「01234567890」の「4」を「A」に置換する。

・CODE39 を指定

設定開始 → 項目コード(Data Replacer Setting) → Code39 指定「07」(巻末) → 設定終了

・ポジションを指定して置換キャラクタをセット

設定開始 → 項目コード(character set1) → 位置指定「05」 → キャラクタ指定「41」(P76,巻末) → セット → 設定終了

設定後の出力結果は、「01234567890」が「0123A567890」となります。

◆Data Organizer Setting◆（データ構成機能）

※エンコードデータの出力構成を指定することが出来ます。

例：EAN-13、「4976558101499」から「6558101」を限定出力する。

※設定パラメータのスタート位置は1桁目「0」となります。

位置情報	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
桁数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
実データ	4	9	7	6	5	5	8	1	0	1	4	9	9

パラメータ設定のイメージ

1st	4番目のポジションより後方を出力する。												
2nd	9番目のポジションより前方を出力する。												
Inc	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

1st : 1st Organization

2nd : 2nd Organization

Inc : Include/Exclude Control

(指定された桁を送信データに「含む」と仮定)

設定方法※

- ・EAN-13を指定

設定開始 → 項目コード(Data Organizer Setting) → Code39 指定「04」(巻末) → セット → 設定終了

- ・1st Organizationを設定(4番目のポジションより後方を出力する。)

設定開始 → 項目コード(1st Organization) → 位置指定「03」(巻末) → 後方出力「1」
設定終了

- ・2nd Organizationを設定(9番目のポジションより前方を出力する。)

設定開始 → 項目コード(2nd Organization) → 位置指定「09」(巻末) → 前方出力「0」
→ 設定終了

- ・Include/Exclude Controlを設定

(指定された桁を送信データに「含む」に設定)

設定開始 → 項目コード(Include/Exclude Control) → 含む「1」(巻末) → 設定終了

設定後の出力結果は、「4976558101499」が「6558101」となります。

◆第十一章 付録◆

キーボードファンクションコードテーブル

No	ANSI	ASCII	Key Function	No	ANSI	ASCII	Key Function
00	NUL	00H	RESERVED	16	DLE	10H	F7
01	SOH	01H	CTRL(Left)	17	DC1	11H	F8
02	STX	02H	ALT (Left)	18	DC2	12H	F9
03	ETX	03H	SHIFT	19	DC3	13H	F10
04	EOT	04H	CAPS LOCK	20	DC4	14H	F11
05	ENQ	05H	NUM LOCK	21	NAK	15H	F12
06	ACK	06H	ESC	22	SYN	16H	INS(Insert)(Edit)
07	BEL	07H	F1	23	ETB	17H	DEL(Delete)(Edit)
08	BS	08H	Back Space	24	CAN	18H	HOME(Edit)
09	HT	09H	TAB	25	EM	19H	END(Edit)
10	LF	0AH	F2	26	SUB	1AH	PAGE UP(Edit)
11	VT	0BH	F3	27	ESC	1BH	PEGE DOWN(Edit)
12	FF	0CH	F4	28	FS	1CH	UP(Edit)
13	CR	0DH	ENTER (CR)	29	GS	1DH	DOWN(Edit)
14	SO	0EH	F5	30	RS	1EH	LEFT(Edit)
15	SI	0FH	F6	31	US	1FH	RIGHT(Edit)

ASCII コード表

HEX 値	0	1	2	3	4	5	6	7
0	NUL	DEL	SPACE	0	@	P	·	P
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	Q
2	STX	DC2	“	2	B	R	b	R
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	S
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	T
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	U
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	V
7	BEL	ETB	‘	7	G	W	g	W
8	BS	CAN	(8	H	X	h	X
9	HT	EM)	9	I	Y	i	Y
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	Z
B	VT	ESC	+	;	K	[k	{
C	FF	FS	,	<	L	\	l	
D	CR	GS	~	=	M]	m	}
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~
F	SI	US	/	?	O	_	o	

参照例：ASCII コード表で “1” を HEX コードで表す場合

ASCII キャラクタを HEX コードで表す場合、ASCII コード表の “1” がある場所が重要となります

“1” は横の列で 4 列目にあり、横列の番号で言うと「3」の列にあります。

“1” は縦の列で 2 列目にあり、縦列の番号で言うと「1」の列にあります。

よって 横 “3” 縦 “1” となり ASCII キャラクタを HEX コードで表すときは、「31」となります。

設定用バーコードを読み取る場合は、「3」、「1」と読み取ります。

システムコマンド

出荷時設定に戻す
(Factory Default)



※「出荷時設定に戻す」のバーコードを読み取ると設定しているすべてのパラメータが戻りますのでご注意ください。

System Information List

※スキヤナのバージョンを表示することが出来ます。



Save User Default

※ユーザー任意で行った設定をスキヤナに記憶させることが出来ます。



User Default

※Save User Default で設定した内容を適用することが出来ます。



※User Default について

- Save User Default に記憶させたパラメータは「出荷時設定に戻す」をスキャンしてもメモリに記憶されています。

サンプルシンボル

UPC-A



UPC-E



EAN-13



EAN-8



Code39



Codabar



Interleaved 2 of 5



Code93



Matrix 2 of 5



Code128



RSS-14



RSS Limited



RSS Expanded



新雑誌コード
(EAN-13 + アドオン5桁)



バーコードコマンドメニュー (設定用バーコード)



0



8



4



C



1



9



5



D



2



A



6



E



3



B



7



F



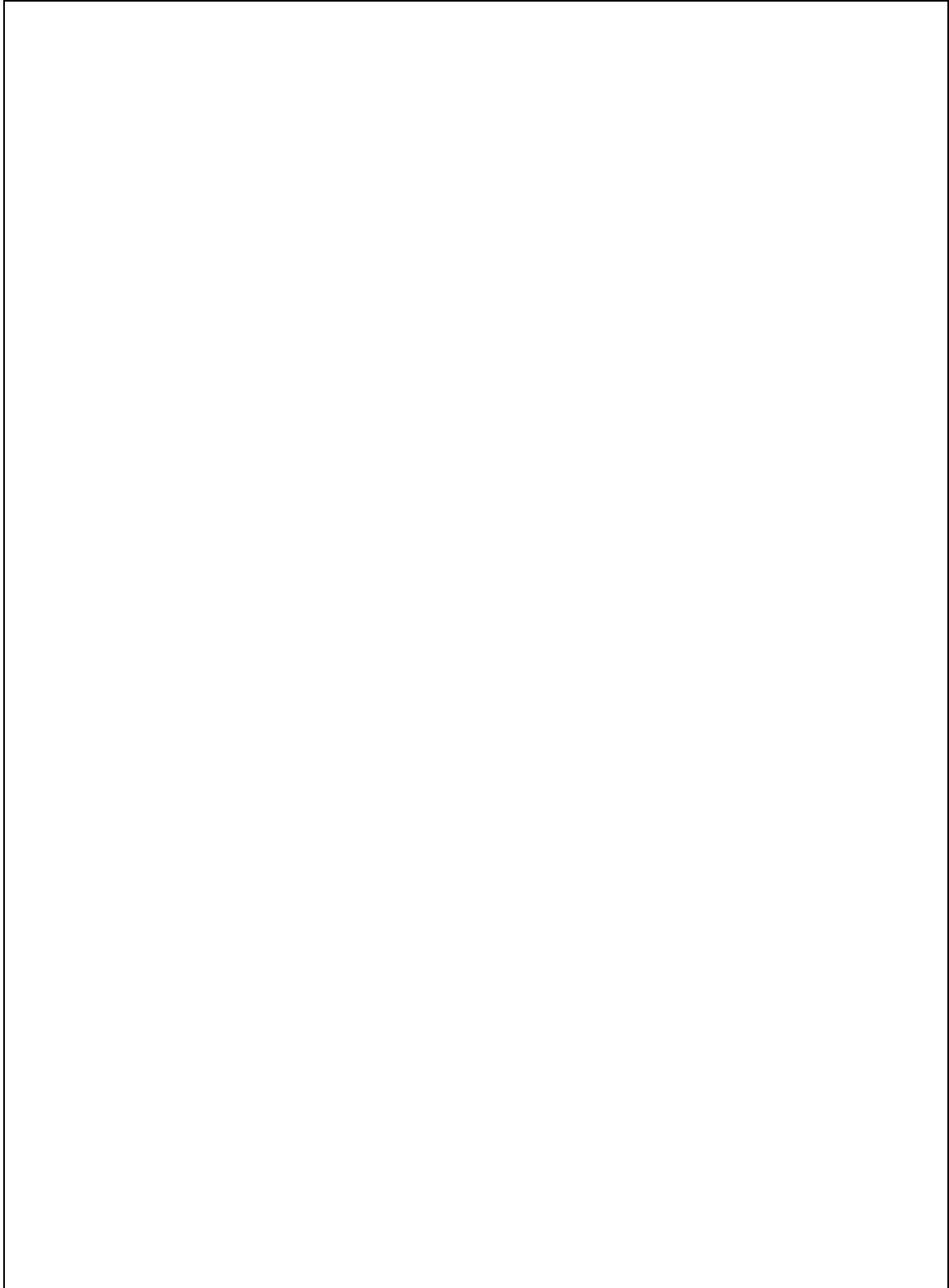
セット



設定終了

◆メモ帳◆

設定した項目を書き入れておくなどご自由にお使いください。

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for users to write their notes or comments. The box is currently blank.

株式会社アイテックス

〒111-0041 東京都台東区元浅草 1-6-13

元浅草 MNビル 6F

TEL03-5246-9420 FAX03-5246-9421

<http://www.j-itecs.co.jp>